

4 他に特徴的な取組はありますか？

①ホームページの充実

- ・ 1日10～20の記事をアップロード
- ・ アクセス数が3倍超に (R4⇒R6)
⇒ R5は230,000アクセス、R6は半年で230,000アクセス



②校長原稿等の事前配布

- ・ 集会等における校長の読み原稿を事前に教員に配布
⇒ 内容の共有と、共通行動

③学校玄関における学校紹介

- ・ 時期に応じた行事の写真
学校紹介PVの上映



【その他の取組①】 情報発信の強化

情報発信・情報共有のメリット

直接的

- 生徒・教員・保護者・地域が同時に情報共有することができる。
 - ・誰もが、学校の“今”を知ることができる。（情報の新鮮さ）
 - ・保護者・地域が子供の様子を知ることができる。話のタネになる。
 - ・生徒が学校のよいところ、自分たちのがんばりに気づく。
 - ・教員が自分自身の授業や取組の良さに気づくとともに、他の教員を参考に、様々な改善を図ることができる。
- 校長の見方・考え方が伝わる。



間接的

- 生徒も教員も管理職の授業訪問に慣れる。
 - ・生徒と管理職の関わりが生まれる。→生徒指導上の効果
 - ・教員と管理職が授業について気軽に話ができる。→授業改善の効果
- 教育課程（授業進度、内容の把握）、施設・設備（要修理箇所、不足物等）
教員・生徒（困っている先生・生徒への声かけ）の把握がしやすくなる。
- 問い合わせの電話が減る。
- 情報が集まるようになる。

【その他の取組①】 情報発信の強化

①現状把握のために

→得意・苦手、長所・短所を的確に把握する。（生徒・学級・学年・学校・教員）

②授業改善・学力向上のために

→全国：＜生徒＞全国の中での自分自身の学力の位置がわかる。

＜教員＞調査問題から授業改善、解説資料から評価基準の改善を図る。

→県：＜生徒＞過去の自分自身の学力と比較できる。

＜教員＞伸びた生徒・学級を把握することができる。

伸ばした教員の効果のある指導方法を共有する。

【その他の取組②】 学力・学習状況調査の活用

○全国学力・学習状況調査の分析

校内研修資料

R6 全国学力・学習状況調査に見る奈良中の現状と改善

060802 奈良中学校

1 状況及び考察

(1) 国語科

	自校採点 (A)	実際の結果 (B)	差 (B-A)
奈良中	52.0	57	+4.5~+5.4
埼玉県		59	
全国 (公立)		58.1	

【考察】

- 自校採点よりも、実際の結果が高いことから、国が求める採点基準はイメージよりも甘い可能性がある。(昨年度と同様の傾向)
- 県平均と比較して約2点、全国平均と比較して約1点低いことから、本校3年生の国語科の学力は、ほぼ全国平均程度といえる。

【解答の傾向】(全国より5p高い・低い問題)

- 【1四】発言を踏まえ、自分の考えを書く問題 (+8.2p)
- 【2三】文の空欄に入る適切な言葉を選ぶ問題 (+6.1p)
- 【4三】行書の特徴について説明したものを選ぶ問題 (+6.8p)
- △【1一】発言の内容を説明する問題 (-6.3p)
- △【1三】正しい説明を選ぶ問題 (-10.7p)
- △【2二】情報の関係の説明が正しいものを選択する問題 (-8.5p)
- △【3三】漢字を書く「みちたりた」 (-11.9p)

→本校の生徒は、自分の考えを書いたり、選択肢のある問題は得意である。
一方で、書いてある内容を正しく把握することが苦手である。

【授業改善について】

- ・ 状況や場面をしっかりと把握できるようにする。(事実の確認)
- ・ 解答がでないときは、ヒントとして選択肢を提示するとよい。
話し合い活動などが進まないときは、話し合うポイントをしっかりと示すとよい。

<全国学調の結果の捉え方>

○ 全国や県と比較し、本校の3年生の学力がどの程度なのかを測ることができます。

※ 昨年度とは受験者が異なるため、毎年よいか毎年悪いということはありません。

○ 先生方にみとってほしいこと3点

- ①テスト結果から、現3年生の学力の傾向を知るとともに、得意・不得意な領域・問題を把握し、授業改善に活かす。
- ②質問紙の結果から、現3年生が学校生活・授業をどのように捉えているか、どのような生活習慣があるかを把握し、指導に活かす。
- ③担当教科に関係なく、全教員が問題を解き、国が求める学力・授業の方向性を知り、授業改善を図る。

【その他の取組②】 学力・学習状況調査の活用

○埼玉県学力・学習状況調査の分析

校内研修資料

埼玉県学力・学習状況調査における奈良中の状況について

060830 奈良中学校

1 学力の状況及び分析

<学力及び伸びの状況> 上段：学力レベル（36段階）、下段：学力レベルの伸び

青字：県または市より+2以上、赤字：県または市より-2以下

○中1

全体	国語			数学		
	奈良中	熊谷市	埼玉県	奈良中	熊谷市	埼玉県
	22	21	21	19	18	17
上位層	24	23	23	23	21	20
中位層	21	21	20	20	18	17
下位層	20	18	18	16	15	14

<分析>

【国語】どの学力層も学力レベルが高い。特に下位層が高い（下位層が少ない）。

【数学】すべての学力層で学力レベルがとても高い。

○中2

全体	国語			数学		
	奈良中	熊谷市	埼玉県	奈良中	熊谷市	埼玉県
	22	22	22	20	21	21
	(±0)	(-1)	(±0)	(+1)	(-1)	(+2)

<県学調の結果の捉え方>

- 各問題にレベルが設定されており、一人一人の生徒がどの程度の難易度の問題まで解くことができるかがわかります。
- 学力レベルを比較をすることで、前年度からの学力の伸びがわかります。
- 先生方にみとってほしいこと3点
 - ①学力が伸びた生徒や学級について分析し、どのような指導方法が効果的なのかを明らかにしてください。
 - ②また、その情報を、学校全体や学年で共有して指導に活かしてください。
 - ③質問紙の結果から、生徒が学校生活・授業をどのように捉えているか、どのような生活習慣があるかを把握し、指導に活かす。

【その他の取組②】 学力・学習状況調査の活用

5 研究の成果と課題は何ですか？

生徒評価（肯定的評価の割合）

朝食を毎日食べる	95%
あいさつを進んで行う	92%
元気よく返事をする	92%
ありがとう等が言える	98%

保護者評価（肯定的評価の割合）

お子さんは朝ごはんを食べている	85%
お子さんは登下校の時刻などを守る	92%
生徒は頭髪・服装等適切である	95%

【成果1】熊谷市・4つの実践は、生徒・保護者ともできていると考えている。

授業に意欲的に取り組む	91%
部活動に積極的に取り組む	95%
学校行事に積極的に取り組む	92%
朝読書に意欲的に取り組む	92%
清掃に意欲的に取り組む	92%

お子さんは授業に意欲的に取り組む	80%
お子さんは部活動に熱心に取り組む	92%
学校行事は効果を上げている	92%

【成果2】生徒も保護者も学校生活に前向きに取り組んでいると考えている。

成果①（R6前期学校評価より）

生徒評価（肯定的評価の割合）

<生徒が選ぶ学校のよいところベスト3>

1位 あいさつがよくできる

2位 **ピグマリオン**

（よいところを認め合う、相手を大切にする等）

3位 仲が良い（学年を越えて、男女問わず）

保護者評価（肯定的評価の割合）

生徒はマナーやルールを身につけている 95%

生徒は生命や人権の大切さ等が身につけている 97%

学校は情報提供をよくしている 100%

【成果3】

<生徒> ピグマリオンの取組への意識を持っており、その成果を感じている。
学年、性別を越えて、互いに尊重し合う気持ちが身についている。

<保護者> 生徒に人権意識が芽生えていると感じている。
生徒がルールやマナーがよいと感じている。

成果②（R6前期学校評価より）

生徒評価（肯定的評価の割合）

【学校生活に関する質問】

○先生は、あなたのよいところを認めてくれている	⇒	「あてはまる」と回答した生徒	(全国+14.3p)
○先生は、間違えたところ等をわかるまで教えてくれる	⇒	//	(全国+24.9p)
○学校に行くのは楽しい	⇒	//	(全国+ 9.3p)
○学級では互いの意見の良さを生かして解決している	⇒	//	(全国+13.6p)

【人権に関する質問】

○将来の夢や目標を持っている	⇒	//	(全国+13.0p)
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだ	⇒	//	(全国+ 7.8p)
○自分と違う意見について考えるのは楽しい	⇒	//	(全国+ 7.4p)

【成果4】

<生徒> 学校や先生に安心感や信頼感を持っている生徒が多い。
自他を認め、人権意識や人権感覚が高い生徒が多い。

成果③(R6全国、県学力・学習状況調査より)

生徒評価（肯定的評価の割合）

学校に行くのは楽しい 90%
自分にはよいところがある 81%
失敗を恐れず挑戦している 79%

スマホ等の時間を減らしている 55%
スマホ利用の約束を守っている 66%

保護者評価（肯定的評価の割合）

お子さんは喜んで登校している 86%

- 【課題1】学校が楽しいと考えている生徒・保護者が多いが、一部に楽しく通えていない生徒がいる。
- 【課題2】スマホについて保護者との約束を守れず、使用時間を減らせない生徒が多い。
- 【課題3】自分に自信がない生徒、挑戦できていないと考えている生徒が一定数いる。

<対策1> 学力向上
⇒わかる授業の推進
補充学習の充実

<対策2> 自尊感情を高めるための
さらなる環境づくり
⇒ピグマリオン、スキル教育の充実

<対策3> 問題行動への適切な対応
⇒道徳教育（人権含む）の推進、問題行動
の早期発見・対応・専門機関との連携

課題と対策

<令和6年度 教職員>

松永 哲	関谷 淳	諸 幸代	野口 雅代	浅香 好	宇佐美将熙
山川 裕也	濱川 真波	清澤 広毅	樋口 佳代	井上 純一	斉藤 理央
森 祐輔	清水 直樹	長峰 由樹	大谷 直子	日向 祐介	樋口 美帆
新井 俊介	馬場 勝巳	中澤 信宏			

<令和5年度 教職員>

小林 礼二	谷鹿 光	津久井美喜	山崎 千晴	小池 美花	田中嶋玲子
-------	------	-------	-------	-------	-------

<Special Thanks>

文京学院大学 伊藤 幸男 特任教授
熊谷市教育委員会学校教育課の先生方



研究に携わった先生方